

（午後3時30分 再開）

○議長（岡 弘悟君）休憩前に引き続き会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

順番12、20番 辻本君。

〔20番（辻本 勉君）登壇〕

○20番（辻本 勉君）19番議員のマーケティングについての講義というか、一般質問はどうでしたか。それを受けての私なんで、眠くなる時間帯ですけれども、もう少しおつき合いをいただきたいなと思います。

今回は当初二つ一般質問する予定でおったんですけども、私事でいろいろ事情がありましてばたばたしましたので、当初から考えておった一点に絞らせていただきました。

それでは、議長のお許しをいただきましたので、一般質問を行います。

市内公共交通の利便性向上のため、交通系ICカードの導入についてということで行います。

国では、平成27年2月に閣議決定した交通政策基本計画において、平成32年、2020年度までに、俗に言われるSuicaとか、PiTaPa、PASMO等の総合利用可能な交通系ICカードを全ての都道府県で使えるようにする目標を定めており、旅客交通のサービスレベルの向上や訪日外国人旅行者の受け入れ、環境整備に向け、交通系ICカードの普及や利用拡大に取り組むということで行われています。

また、県では、現在、来年度に向けて知事査定が行われているわけでありまして、総合交通政策課から路線バス利用者の交通系ICカードの導入などを支援し、バスの利便性を向上させるための事業についてというこ

とで知事に説明をされています。

その中の一つは、乗車したいバスの待ち時間や現在地をスマートフォンなどで把握できる仕組み、バスロケーションシステムということで説明がありまして、これは和歌山バスに導入し、JR和歌山駅など6箇所にデジタル標識を設置したいという説明がなされました。鉄道会社のICカード乗車券がバスにも共通利用できれば、観光客らの利便性が拡大するとし、19年度の導入に積極的に取り組んでいくということでもあります。

本市でも、橋本市地域公共交通網形成計画の中でもICカード導入についての検討をなされているということでもあります。よって、早期の実現に向けて取り組んでいただくことをお願いするにあたり、質問したいと思います。

2019年度春から、JR和歌山線に新型車両が導入されることにあたり、車載型IC改札機搭載が本年の3月に報道されました。県の関係につきましては先ほど述べたとおりであります。現在は、キャッシュレスの時代と言われて、またカードの時代であります。市民からもICカードの導入を希望する声が高まっています。県やJR西日本の取り組みを踏まえて、また、隣接する河内長野市・五條市や紀北地域の各自治体の交通系ICカード導入状況がどうなるかも考慮した上で、ICカードの導入についてどのように考えているのかをお尋ねいたします。

市の事業としてICカード導入を支援する考えはあるとすれば、市の負担額、負担割合と支援する理由についてお聞かせください。

二つ目。近隣地域の状況についてであります。とりわけ、和歌山市、紀の川市、岩出市、

河内長野市、五條市等の状況についてお教えください。

三つ目は、市民にとってどのようなメリットがあるのかということについてお尋ねをいたしたいと思います。

以上、壇上からの質問といたします。

○議長（岡 弘悟君）20番 辻本君の質問、市内公共交通への交通系 I C カードの導入に対する答弁を求めます。

総務部長。

〔総務部長（小原秀紀君）登壇〕

○総務部長（小原秀紀君）交通系 I C カードの導入についてお答えします。

現在、市内の公共交通機関における交通系 I C カードの導入状況は、鉄道においては南海電鉄が既に導入済みであり、J R 和歌山線も1年をかけた新型車両の導入に際し、来春から車載型 I C カードが導入される見込みですが、市内路線バスについては未導入の状況となっています。

国における交通系 I C カードの普及・利便性の拡大については、平成27年2月に閣議決定した交通政策基本計画において、平成32年度までに相互利用可能な交通系 I C カードを全ての都道府県で使えるようにする目標を定め取り組むとしており、県においてもこの取り組みを進めるため導入自治体と協調補助制度を設けています。本市としても移動を円滑に行うため、交通系 I C カードの必要性は認識しており、橋本市公共交通網形成計画においても、関係者や市民、利用者、来訪者の意識、ニーズを踏まえ、導入検討することとしています。

交通系 I C カード導入の実施主体は交通事業者で、運行する地域の自治体と連携して取り組むもので、交通事業者に対し国、県、関係市町村がそれぞれ負担割合に応じて補助金を交付することになります。

このように、周辺地域の I C カードの導入が進む状況のもと、市内路線バス事業者である南海りんかんバス株式会社も国等の補助事業を活用し導入をしたい旨の申し出があり、本市においても市内公共交通の再編を控え、I C カードの導入が、公共交通利用者の利便性の向上を図ることが見込めることから、路線バス・コミュニティバスに対し、平成32年3月までに I C カードを導入するための支援を考えています。

導入に係る費用負担の割合は、国・関係自治体・交通事業者がそれぞれ3分の1となっており、関係自治体の負担割合として県が2分の1、高野町と本市が合わせて2分の1で、本市の負担額は現時点で1,000万円強となる見込みです。

次に、近隣の状況についてですが、和歌山市・岩出市・紀の川市等においては、和歌山バス株式会社、和歌山バス那賀株式会社が路線バスを運行しており、平成32年3月までに I C カードを導入する予定です。また、大阪府河内長野市は、南海バス株式会社、奈良県五條市は奈良交通株式会社が既に導入済みとなっています。

市民にとってのメリットですが、外国人を含む域外からの旅客を含め、移動の円滑化などの利便性の向上や公共交通利用のバリア軽減の実施、I C カード利用データを用いた自治体の政策効果測定への活用が見込めるとともに、カード利用可能エリアに加わることによるイメージアップ効果も見込めるなど効果が大きいものと考えます。

○議長（岡 弘悟君）20番 辻本君、再質問ありますか。

20番 辻本君。

○20番（辻本 勉君）取り組んでいくという良い答弁をいただいておりますので、再質問についてはなしということで終わりたいので

すけども、答弁に対して何も言うことはないんですが、少し和歌山県の状況というのをもう少し詳しく言っておきたいなど、このように思います。

現在、和歌山県内の路線バスで交通系ＩＣカードを利用できるのは、奈良交通が八木新宮線を走っておりますので、こちらだけになっています。和歌山市エリアの和歌山バス、高野山エリアの南海りんかんバス、白浜エリアの明光バス、那智勝浦大社等のアクセスとなる熊野交通といった県内の主要観光地でのアクセスとなる路線バスでは、交通系ＩＣカードが軒並み使えない状況となっています。こういうことで、国の施策とも踏まえて2020年度までには全てがやっけていけるのではないかなということ、本市についてもそれに乗っていただくことが一番ベターではないかなと、このように考えています。

そんな中で、和歌山線も、現在、高田と五條間でＩＣカードのＩＣＯＣＡの利用が開始されています。19年から順次導入されて、2020年春には全車両に配置をするということでもありますので、鉄道からバスへの乗りかえ等も含めてＩＣカードはぜひとも必要であるんで

はないかなと、このように考えています。檀上でも申し上げたとおり、県のほうも積極的に取り組んでいくということなので、現在、補助金等がある間に実施することが本市にとってもベターではないかなと、このように思っています。

市民の足である公共交通ということで、特に高齢化社会の中で公共交通の役割というのはさらに大きくなるのではないかなと。以前は結構、公共交通について、マイカーをやめて公共交通でという話がよく出たんですけども、最近は少しそういう点が薄れてきていますが、公共交通の必要性というのは、十分認識をしておるところでありますし、公共交通を守るためというか、それと、市民サービスにつながる公共交通の支援ということは私たちにとっても責務であると考えておりますので、今回の一般質問を行いました。趣旨を十分ご理解いただいて、必ず取り組んでいただくことをお願いいたしまして、私の一般質問を終わりたいと思います。

ありがとうございました。

○議長（岡 弘悟君）20番 辻本君の一般質問は終わりました。